

MS-1 諏訪のDTFイノベーションを世界に発信 13:10 次世代ものづくりデスクトップファクトリー (DTF)

DTF研究会 会長
株式会社平出精密 代表取締役 平出 正彦

【セッション概要】

DTFは、小さなものを小さな機械や装置を使い最適な場所で合理的に生産する、地球と環境に優しい新しい生産方式の「工場」である。精密機械加工技術を受継ぐ諏訪地方の大企業・中小企業の共同体が世界を視野に10年かけて開発した。本講演では、国際展示会への出展やフランスのメカトロニクスアワード受賞などに至った市場開拓の軌跡と、海外の研究機関や医療器械メーカーからの引合い対応など、プロセスイノベーションの発想で展開しているビジネスモデルを紹介する。

【講演者略歴】株式会社平出精密 代表取締役社長。DTF研究会会長、長野県シートメタル工業会副会長、日本経営工学会・レーザー協会・レーザー加工学会会員。学生時代よりMTM国際ライセンス取得、IE工学を中心にコンサルタント活動を行う。中央大学理工学部卒。

MS-2 リスク管理重視のLSI開発プロジェクト 14:15 後追い型課題管理からプロアクティブ型リスク管理へ

ヤマハ株式会社 半導体事業部 商品開発部
プロセス支援グループ 主任 加藤 恒

【セッション概要】

当社のLSI製品は顧客システムにおける中核部品であるため失敗時の手戻りコストが大きく、開発計画が破綻しないよう従来からリスク管理を徹底してきた。しかし、実際には課題管理に終始するなど手遅れとなる場合も多かった。当講演では、課題管理からの脱皮のきっかけとなった「リスク管理視点での企画・先行開発プロセスの定義」「リスク対策の実効力を高める仕組み作り」等の事例を紹介すると共に、開発現場と支援チームの協調による仕組み改善の重要性についても論ずる。

【講演者略歴】1998年ヤマハ(株)入社。2003年より事業部門へのソフトウェア開発プロセス改善活動・PM導入支援を行う全社スタッフ(SEPG)となる。2007年より現職。アナログICの開発プロセス改善を担当。SQiP2010「SEPGによるハードウェア開発プロセス改善事例」共著。

MS-3 宇宙開発プロジェクトの知識継承 15:35 組織的な知識継承と、はやぶさ等の事例

独立行政法人宇宙航空研究開発機構
システムズエンジニアリング推進室 開発員 小川 亮 C&P

【セッション概要】

人工衛星や国際宇宙ステーションなど宇宙機構が取り組むプロジェクトは様々な分野に渡るが、そこから得られた経験や知識は組織的に共有、継承できるような事例も多く、知識継承の活動を充実させることは組織的なPMやエンジニアリングスキルの向上のために重要な活動であり、長年にわたり様々な試みを行っている。現在、宇宙機構で実施している知識継承の活動について、小惑星探査機「はやぶさ」と、小型ソーラー電力セイル実証機「IKAROS」の成功事例を踏まえて紹介する。

【講演者略歴】工学修士。宇宙開発事業団(現宇宙機構)2001年入社。ロケット、衛星に関する情報システムの研究・開発、宇宙機のミッションやシステムコンセプト設計活動に携わった後、2008年から全社的な開発プロセスやナレッジマネジメント活動の仕組み構築と普及に取り組む。



FI-1 品質管理とキャパシティ管理のプロセス 13:10 株式会社東京証券取引所 株式会社売買システムarrowheadでの取り組み

株式会社東京証券取引所
株式会社売買システム部長 宇治 浩明

【セッション概要】

東証の株式会社売買システムarrowheadで取り組んだ品質管理とキャパシティ管理のプロセスを紹介する。品質については、詳細でMECEな要件定義の作成と、設計およびテスト工程での要件トレースを行った。また、各工程を通してフィードバック型V字モデルを適用した。キャパシティについては、長期拡張、短期拡張、緊急拡張の3パターンを用意した。システム容量とレスポンス性能のモニタリングを日次で行い、これをインプットとしてキャパシティ管理プロセスを組み立てた。

【講演者略歴】1986年4月NTT入社。1988年NTTデータに移籍し以後、金融機関向けシステムの開発に一貫して従事。2006年6月東京証券取引所に入社し、次世代株式会社売買システムarrowheadの開発にプロジェクトマネジャーとして参画。2009年1月より現職。

FI-2 両輪はBABOKとPMBOK® 14:15 人と人を繋げるプロジェクトマネジャーの新常識

株式会社パソモ システム部
アシスタントマネジャー 平井 丈裕

【セッション概要】

(株)パソモでは、約二年前からBABOKを取り入れている。ここにきて、既に導入済みであったPMBOK®との連携が、いくつかの成功体験をもたらし、プロジェクトを進める上での新常識として社内に定着し始めてきた。今回は、その成功事例の中でも既存の枠組みを超えた「人の繋がり」とそれを支えた「仕組み」によって、新しい価値を生み出す事が出来た事例に焦点をあて、その成功要因や勘所(コツ)と合わせて紹介する。

【講演者略歴】1997年、外資系大手システムインテグレータに入社し、大規模開発のプロジェクトマネジャーを歴任。問題プロジェクトの立て直しを多数経験したことから、「火消し役」を強みとする。2009年より現職。次期システムの超上流工程を中心役として進めている。保有資格はPMP®、SSCP®など。

FI-3 ITプロジェクトを成功に導くPMO 15:35 顧客側マネジメントPMOのベストプラクティス

株式会社コア ビジネスソリューションカンパニー
コンサルタント/PMO 百村 幸男 C&P

【セッション概要】

最近、ITプロジェクトにてPMOを導入するケースが多く見られる。しかし、その多くは、進捗管理などの計数管理を主な役割としたものであり、プロジェクト遂行に対するPMO導入の効果は限定的である。ITプロジェクトでのPMOの最も重要な役割は、IT導入顧客の経営課題を解決するプログラムマネジメントの実行支援である。その成功条件について「中堅商社のBPRを伴う基幹システム導入プロジェクト」での顧客側マネジメントPMOの実践経験を通して明らかにする。

【講演者略歴】某エンジニアリング系IT企業にて、企業経営へのプロジェクトマネジメントの適用に関するEPM導入コンサルティング業務に従事(2004年-2006年)。2006年から(株)コアにてPMO(プログラムマネジメントオフィス)コンサルティング業務に従事。PMS。

FI-4 金融サービスにおけるIT価値の協創 16:40 事業パラダイムシフトを支えるITガバナンス

株式会社金融ビジネスアンドテクノロジー 代表
島田 直貴

【セッション概要】

金融界は、収益トップラインの限界とマネーフローの変化で成長戦略を描けずにいる。膨大な資産を活用して国富を増やすために、グローバル化の強化とビジネスモデルの変革が不可欠である。一方で信用秩序維持と顧客保護を目的に、規制は多層化している。こうした環境下、ITには、商品・サービス・チャネルに対する顧客ニーズ変化との同期が求められる。コアテクノロジー、アーキテクチャ、開発技法、組織体制をいかに変革すべきか考察する。

【講演者略歴】(株)金融ビジネスアンドテクノロジー代表。1971年日本IBMに入社以来、一貫して金融機関の情報システムに従事。2000年より現職。IT戦略コンサルタントとして多くのコンサルティング、著作、講演を行っている。2011年2月よりNPO法人金融ITたくみ理事長。

PS-1 斎藤佑樹 主将達と共に歩んだ4年間 13:10 早稲田大学野球部 明治神宮大会初優勝までの軌跡

新日本製鐵株式会社
マネジャー 應武 篤良

【セッション概要】

甲子園で優勝を遂げた斎藤佑樹を含む多くの新人達が、我が早稲田大学野球部に入ってきた。私は、監督として彼らを預かり、一流の選手に育成し、次のステージへ送り出す責務があった。4年間寝食を共にし、勝つことだけを目標に厳しく導いた。慶應との優勝を賭けたリーグ戦、そして大学日本一を決める明治神宮大会決勝。しかしそこで私は、野球が出来る喜びに感謝し、相手を称えることを学んだ。それが結果的に勝利をもたらしてくれた。本講演では、彼らと共に歩んだ軌跡をたどり、大学野球での選手育成について語る。

【講演者略歴】早稲田大学野球部前監督。1976年崇徳高で捕手として春、夏の甲子園に出場、春は優勝。1977年早大進学。1981年新日鐵入社。1988年ソウル五輪で銀メダル獲得。現役引退後、新日鐵君津監督、日本代表コーチ、早大コーチを経て、2005年春から10年秋まで第17代早大監督就任。広島県出身。

PS-2 プロジェクトマネジメント East meets West 14:15 グローバル視点を目指すプロジェクトマネジャーのための

PMI日本支部 プログラムディレクター
永谷 裕子

【セッション概要】

昨今、IT開発プロジェクトのプロジェクト・マネジャーは出来れば避けたい職種になっているようです。アメリカではプロジェクト・マネジャーは魅力的なキャリアと考えられています。様々な多国籍企業でのグローバルプロジェクトの経験から、この違いを紐解いていきます。

- ・日本流プロジェクトマネジメントと欧米流プロジェクトマネジメント。
- ・日米のプロジェクト・マネジャーの立ち位置の違い。
- ・日米双方から学ぶプロジェクトマネジメントのアプローチ。

【講演者略歴】多国籍企業でIT開発プロジェクトにプロジェクト・マネジャーとして従事。北海道大学大学院非常勤講師、慶応義塾大学大学院非常勤講師、東京地方裁判所(IT専門) 専門調停委員、JUAS公認システムコンサルタント、産業カウソセラー、MBA(オハイオ州立大学)、PMP®。

PS-3 アジャイル開発におけるリーダーシップ 15:35 アジャイル開発プロジェクト成功の秘密

株式会社アイネット
代表取締役 竹腰 重徳 C&P

【セッション概要】

アジャイル開発は、変化する顧客の要求を迅速に実現するため、自己組織的チームと顧客との協調によって実施される反復的、漸進的な開発方法である。アジャイル開発のPMに必要なリーダーシップは、指示管理型リーダーシップではなく、チームメンバーの要求や育成を最優先し、チームを下から支えて導いていく協調型リーダーシップ(サーバント・リーダーシップ)である。それにより、チームは、自ら課題を迅速かつ創造的に解決できる自己組織的チームに成長し、プロジェクトを成功に導く。

【講演者略歴】大阪大学卒業後、マツダ、日本IBMのSE、営業を経て、(株)アイネットを設立。IT関連企業を対象にPM研修、リーダーシップ研修、業務知識研修、営業研修、経営品質向上プログラム研修等のサービスを実施。過去に北海道大学非常勤講師や板橋橋経営品質審査員を経験。PMP®。

PS-4 PM実践力育成策の研究報告 16:40 実践力を真の「実戦力」に高めるために

- ①富士通株式会社 木野 高史
- ②株式会社NTTデータユニバーシティ 秋山 雅俊
- ③株式会社インテック 高野 智 SIG

【セッション概要】

プロジェクトマネジャーの実戦力を高める取り組みは近年、企業だけではなく、大学でも研究熱が高まってきている。言い換えればそれだけ難しいテーマであるといえる。IT-SIGの育成WGでは各組織で行われている育成事例を調査し、より効果的な実戦力育成策の研究に取り組んできた。本セッションではその研究成果から、PMの実戦力を形成する重要な要素とその育成プロセスのモデルの提示、並びに各育成プロセスの具体策や特長、育成策の実践から得られたことについてご紹介したい。

【講演者略歴】①2000年までシステム開発に従事。以後富士通PMコミュニティの運営やPM育成に携わる。②2006年4月からNTTデータグループ向けの研修サービスに従事。教育管理システムのプロジェクト責任者を務める。③1996年NECからインテックに転職。2003年までシステム開発に従事。以後プロジェクト管理の標準化やPM育成に携わる。